

令和7年度第1回久米島町地域公共交通会議

令和7年6月4日

町営バス事業

【現状】

町営バスにおきましては事業者協力型自家用有償運送を令和7年4月1日より運行委託を開始しております。

町営バス事業は車両4台（中型バス2台、マイクロバス2台）
運行管理者1名、整備管理者1名

運転手5名にて運行実施しておりますが、利用者数の減が続いており、物価高騰、人件費、整備費用増（車両重整備、本島へ移送メンテナンス対応）により赤字運営となっており、安全を第一に継続的な運行を図るための施策（働き方革命・若年層の雇用人材育成）を図り効率的な運行体制を図っていきます。

令和6年度 実績

【利用者数】

年間延べ利用者数 37,960人 (R5.10～R6.9)

【年度収入】

利用者使用料	798万円
県補助金	880万円
収入合計	1,678万円

【年度支出】

主な支出	人件費	1,482万円
	燃料費	606万円
	修繕費	984万円
	その他	815万円
支出合計		3,887万円

収支合計額

△2,209万円

議題1 久米島町営バス補助対象路線の変更について

路線バス運行経路の見直しは、地域住民の移動ニーズに応じた重要な施策であり、公共交通機関の利便性向上に寄与するものです。

近年、少子高齢化に伴い、地域住民の交通手段に対するニーズが変化しています。そのため、運行経路の見直しを行うことで、地域経済の活性化や住民の生活の質向上に繋がると考えています。

住民説明会・区長会への説明会を実施し意見を収集し、どのような移動ルートが求められているのかを把握し、すべての路線が兼城港を拠点とする路線変更(案)となっております。

早朝便、夕方便に関してはタクシー事業者等と連携を図りながら空路・航路、学校、スーパーマーケットや病院などの主要生活拠点を結ぶルートを優先的に運行することで、日常生活に必要な移動を確保します。また、観光地や文化施設へのアクセスも維持することで、観光客の利用促進し、地域経済の活性化にも寄与することが期待されます。

今後、位置情報アプリを導入を予定しており、住民、観光客が必要な時に必要な場所へ移動できる柔軟な交通サービスを提供し、交通弱者への配慮も継続し実施します。

議題2 久米島町営バス料金の見直しについて

路線バス料金の見直しについては、地域公共交通の持続可能性を確保するために非常に重要な課題であります。年間約100名ほどの人口減少が続き、少子高齢化が進む中で、路線バスの利用者が減少傾向にあります。

これに伴い収入も減少しております。このような状況下で、路線バスの運営を維持するためには、料金体系の見直しが必要不可欠です。

料金見直しの目的としては、運営コストの適正化と利用促進が挙げられます。運営コストには、車両の維持管理費、人件費、燃料費などが含まれますが、これらのコストは年々増加傾向にあります。そのため、現行の料金体系では運営が困難になる恐れがあります。そこで、料金の見直しを行い、適正な運賃体系を設定することで、運営の安定化を図る必要があります。

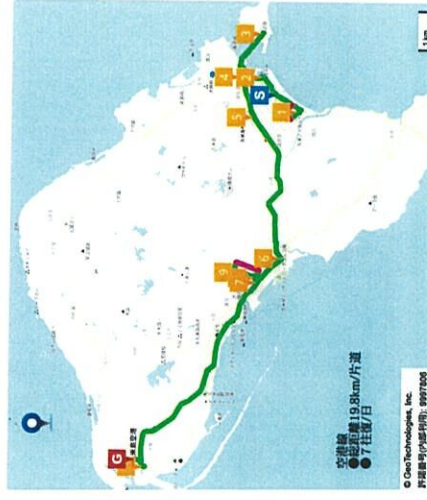
料金見直しにあたっては、利用者の負担を考慮することも重要です。今回の見直しに関して学生に対して一部料金の負担軽減を実施、高齢者や障がいのある方についてはこれまで同様に申請いただき免除・減免措置を実施します。

今後、定期券等の導入についても検討いたします。

また、今後タッチ決裁の導入を予定しており利用者の利便性の向上に取り組めます。

運行路線現行及び変更(案)

【現行】空港線



右回り



左回り



【変更(案)】空港線



新設 右回り、左回り



路線変更のポイント

一周線を取りやめ、イーフ地区、兼城港を起点とする右周り線、左周り線の新設

議題3 バス停留所の追加について

住民からの要望もあり、移動ニーズや利便性の向上及び健康増進を図るため、安全に乗降可能かどうか慎重に検討・調査を進め今回追加設置として議題を提出いたしました。特に、住民の生活圏内における主要な施設や住民の健康増進を図るサービスへのアクセスを向上させることで、地域の活性化・健康増進につながると考えております。

追加バス停(案)に関しては

- ・「奥武島入口」
- ・「ホテルドーム入口」

設置場所(案)に関しては資料航空写真のとおりとなります。

議題4 空路・航路ライナーバスの運行・運賃について

本町において毎年7月に東京直行便の就航があり今年は11月にジェットホールの就航の計画があります。昨年において路線バスのみでの直行便・定期ジェット便対応は困難を極め島民利用において制限が生じる状態となっております。

今年度に関しましては町営バス運行事業をバス事業者協力型有償運行委託を締結と同時に貸切バス・路線バスの両事業が一体的に運営可能体制の整備が出来た事から住民・観光客の交通利便性向上を目的とした重要な取り組みとして検討しております。

まず、運行について、空港・港ライナーバスは、主要な交通拠点と宿泊地域拠点を結ぶ役割を果たします。これにより、利用者はスムーズに目的地・宿泊地付近への移動できるため、観光の利便性が向上します。

運賃についてですが、運賃設定は利用者にとっての負担軽減を考慮しつつ、地域の交通事情や競合他社の状況を踏まえた上で金額設定されております。